

IV．モデルケースにみる観光と交通に係る方策の方向性

1．東北新幹線の八戸延伸に向けた観光と交通に係る方策の方向性

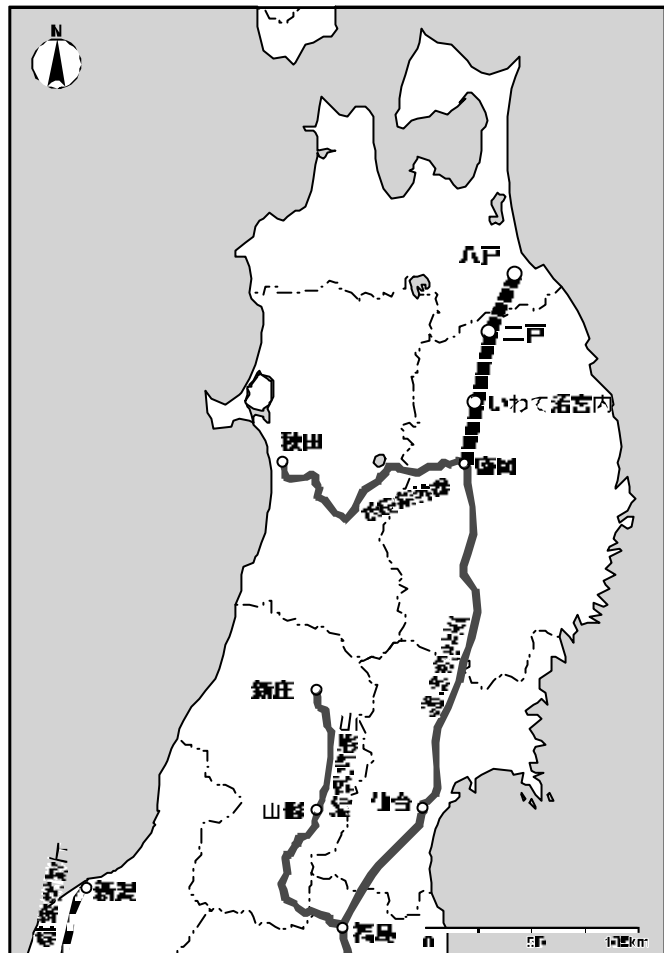
1) 東北新幹線の八戸延伸の概要

東北新幹線は、2002(平成14)年12月1日に青森県八戸まで延伸する。東北新幹線盛岡開業からちょうど20年である。盛岡以北は、沼宮内(岩手県)と二戸(青森県)に停車し、現時点では1日15往復(東京～八戸)を予定しており、東京と約3時程度で結ばれることになる。しかし、新幹線八戸駅と八戸市街地が離れており、市街地へは新幹線八戸駅でJR八戸線に乗り換え、約10分を要する。八戸駅前の整備は、現在駅舎整備とともに進められてはいるものの、観光客が滞留する施設やサービスとしての機能は若干弱いことは否定できない。同様に、沼宮内や二戸駅においても、駅舎のほかにも観光情報センターや物産館が整備されるが、駅周辺は観光拠点としての位置づけは明確とは言い難いことが課題である。

また、八戸延伸に伴って、北東北地域の観光振興に期待が高まっているものの、各駅からの2次交通の計画が検討段階であること、現在の盛岡の交通拠点性と観光拠点性が高いことに比べると八戸市の拠点性が弱いこと等の理由により、新幹線延伸が八戸市に与える影響は不確定である。

しかし、八戸以北の下北半島地域については、これまで三沢空港や青森空港からアクセスしていたが、航空機と比べて輸送可能量が大きい新幹線を利用した観光流動が期待されている。その一方で、地元としては三沢空港と青森空港の利用が減少することに危惧しており、往復の経路を鉄道と空路を使い分けした周遊観光商品の造成などの対応が必要である。

東北地方の新幹線経路図



出所) 日本鉄道建設公団盛岡支社パンフレットより作成